



MESSAGE

名城大学アジア研究所の開設と3つの方向性



名城大学
アジア研究所 所長

福島 茂

名城大学は、アジア地域の学術・国際交流の拠点を目指し、名城大学アジア研究所を平成18年4月に総合研究所のもとに開設いたしました。名城大学は、「総合化」「高度化」「国際化」を教育・研究の基本コンセプトとして大学運営を展開しており、このアジア研究所もその一環として開設されたものです。名城大学が有する知的資源や国際的なネットワークを活用しつつ、アジアの持続可能な発展に資する知的創造のコアとして、国際社会、地域社会に貢献することを目的としています。この7月には企画型研究プロジェクト1件、公募型研究プロジェクト4件が採択され、研究所活動が本格的にスタートしました。天白キャンパス10号館1階では、研究所施設の整備が着々と進められています。9月19日には、元国連事務次長であり、アジア研究所の名誉所長でもある明石 康先生を講師にお招きし、開所式ならびに記念講演会「グローバル化の中のアジアと日本」を開催いたします。

アジア研究所では、次の3つの方向性からその活動を特徴付けたいと考えています。第一は、アジア研究所の設立目的として掲げている「アジアの持続可能な発展」に資するという点です。アジアは近年目覚しく発展し始めた一方で、社会経済格差、環境問題、国内外の紛争など様々な問題を抱えています。経済発展は環境負荷や資源収奪を一層高めています。また、アジアは自然・民族文化・経済社会において多様であり、この多様性を摩擦ではなく豊かさに変換していく、アジア地域の統合も求められています。アジア研究所では、「アジアの開発・社会・環境に関する文脈理解」「持続可能な発展を実現しうる統合的アプローチとその戦略」「リージョナルな国際協力・制度的枠組み」という観点からアジアの持続可能な発展について研究を展開します。

第二に、「名古屋圏 (Greater NAGOYA) から考える、アジアで考える、日本とアジアの相互理解を深める」という観点からアジア研究を進展させます。経済のグローバル化やリージョナル化のもとでアジアは一層緊密になりつつあります。名城大学が位置する名古屋圏は日本の製造業の中核地域であり、そのアジア進出にともない名古屋圏とアジアとの相互依存関係はますます深まりをみせています。投資・貿易を通じた国際経済の緊密化はアジア各国の社会や環境にも大きな影響を及ぼします。私たちは、経済、社会・文化、環境のバランスのとれた順循環的な発展と生活の質の向上をアジアと共に考えることが求められています。

第三に、名城大学の知的シーズからグローバル・ニッチなアジア研究拠点を目指します。総合大学である名城大学には、自然科学、社会科学、人文科学、総合学術など多面的な研究蓄積がなされています。アジア研究は地域研究を中心として社会科学や人文科学がリードしてきた面はありますが、理系分野も十分その射程に含まれます。農学・薬学・バイオテクノロジーにはアジアの天然資源を研究素材とするものがあり、環境学や工学の一部(建築学・都市計画)なども地域的な研究フィールドを持ちうる領域です。学内の知的シーズや要素技術を活用し、アジアをフィールドとして応用展開していくことで国際的な学術・研究交流の拠点を形成していきます。

アジア研究所はアジアに関心をもつ学内外の研究者に開かれた研究機構です。研究助成、研究交流施設、セミナー開催や専門ジャーナル・叢書の出版などのプラットフォーム機能を用意しています。学内外の研究者、ならびに他大学・研究所・企業・国際機関などと広く協力してアジア研究を進めてまいりたいと思います。今後とも皆様のご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



自己心理学のすすめ

名城大学 教授 榎本 博明

僕は心理学者ですが、とくに専門にしているのは自己心理学です。自己心理学とは、自己をテーマとする心理学で、自己の構造、自己の機能、自己の発達・変容などを研究するものです。

このところ心理学ブームなどと言われます。でも、じつは心理学は僕の学生時代からなぜか人気があり、僕自身1年時も2年時も抽選に漏れて心理学の授業を受講することができませんでした。そのせいもあってか、心理学への興味が強まり、理系から文系に移り心理学を専攻することになりました。このように心理学の人気は今に始まったことではないのですが、臨床心理学が絶大な人気を誇っているというのがこのところの特徴といえます。臨床心理学というのは、心の病気を理解し治療するというじつに実践的な学問領域です。このような学問が隆盛を極めるということは、世の中に心の病気が蔓延していることのあらわれといってよいでしょう。昨日(2006.8.21)の朝日新聞の夕刊の一面にも、「心の病」30代社員急増」といった見出しのもとに、うつ病や神経症になる社員の急増が企業の抱える重大な問題になっていることが記されています。

ところで、臨床心理学はいわば実践の知であり、実践の手法です。実践ものだから役立てばよいのであって、科学としての心理学とは別物であるといった認識のもと、その研究方法の厳密さの欠如に関してクレームがつくことは少ないということがあります。それに対して、いわゆるアカデミックな心理学の世界では、客観性を重んじるあまり、心の内面のような客観的に把握不可能なものは研究対象としないといった風潮が支配的でした。客観的に観察可能な行動のみを研究対象とするという立場です。

しかし、そのような行動の学としての心理学は、一般の人々が疑問に思ったり悩んだりする心の現象の不思議を解明するのに、どれだけ力があるかは疑問です。客観的に観察可能な行動そのものではなく、その背後にある意識の世界、客観的な行動を解釈し意味づける主観的世界で起こっていることこそが、僕たちが日々の生活の中で不思議として経験したり、どうしても整理がつかずに悩んだりしているものであるはずで、そこで僕が提唱しているのが自己心理学です。そこでは、心の主観性の領域を排除して客観的な行動を対象とする行動の学としての心理学に対して、個人の内面で生じている主観的な現象、自分の心の世界として受け止めら

れる内面的な世界の出来事を対象とする心理学を想定しています。

自己心理学の立場から僕がやっている研究の柱をいくつかあげると、自己開示の研究、自己物語の研究、キャリア形成の研究、子育て支援の研究、環境教育の研究などです。

最近引きこもりの時代などと言われ、自分を社会にうまく根付かすことのできない若者が急増しています。自分を社会につなげることの困難には、人とうまく関われないといった側面と、社会的・職業的役割をうまく担えないといった側面があると考えられます。前者で問題になるのが対人不安や対人距離失調症であり、いかにうまく自己開示しあえる関係を築くかがテーマとなります。後者で問題になるのはフリーター・ニート問題に代表されるキャリア形成の問題であり、キャリア・アイデンティティやキャリア形成力の発達やその促進法がテーマとなります。

それらの問題にも関連しますが、「自分はなぜここにいるのだろう、どこから流れてきてどこに向かっているのだろう?」「どう生きるのがよいのだろう、自分らしいのだろう?」といったアイデンティティをめぐる問いは、僕たちを大いに悩ます難問です。かつてエリクソンにより青年期の課題とされたこの問いですが、今や人生の節目ごとに生涯問い直さねばならない問いといってよいでしょう。個人のアイデンティティは自伝的記憶を素材とする自己物語の形式で保持されているとみなすのが自己物語の心理学で、僕はその立場から面接調査をもとに様々な年代の人たちのアイデンティティの問題を探求することを試んでいます。

だれもが自分のことで精一杯といった時代にあって、エリクソンにより成人期の課題とされた世代性の発達が未熟なように思われます。世代性とは次世代に対する貢献をさします。それを自己のアイデンティティの問題と絡めつつ、他者に開かれたアイデンティティのあり方が引きこもり文化の克服につながり、さらに次世代に開かれたアイデンティティのあり方が子育ての価値を高めるといった形で子育てノイローゼの克服や少子化への歯止めにつながるものと期待されます。自己中心的に閉ざされない自己のアイデンティティのあり方は自然を配慮した行動も生むでしょうし、未来世代のために環境を劣化させない行動を生むと考えられます。そうした観点から、自己心理学を環境教育に応用することも試んでいます。

平成18年度 名城大学総合研究所 「学術研究奨励助成制度の推進課題」決定

平成18年度の「学術研究奨励助成制度の推進課題」が学内の「学術研究審議委員会」において「独創性・新規性・妥当性・社会性・計画性・実施体制」等の観点から総合的に判断され決定しました。

平成18年度から「若手研究助成事業費」「学際的共同研究事業費」の2種目を新設して計7種目の助成制度となりました。

1. 若手研究助成事業費

内容 本学専任教員(平成18年4月1日現在37歳以下)が、科学研究費補助金をはじめ学外の研究助成(学外競争的資金)獲得のための準備段階の研究で、個人または学内の教員(37歳以下)とのグループ研究を対象に助成する。

2. 基礎的研究促進事業費

内容 本学専任教員が、募集対象の前年度(平成17年度)に、科学研究費補助金をはじめとする学外の研究助成(学外競争的資金)に研究代表者として、より発展をめざす研究計画で申請を行ったが、採択に至らなかったものを対象に助成する。(研究分担者を伴うグループ研究を含む)

3. 研究成果展開事業費

内容 本学専任教員が、募集対象の前年度(平成17年度)に、科学研究費補助金(継続を含む)又は学外競争的資金(年額100万円以上)に研究代表者として採択された評価の高い研究で今後いっそう飛躍が期待できるものを対象に助成する。(研究分担者を伴うグループ研究を含む)ただし、科学研究費補助金等の採択課題毎に1回の助成とする。

4. 戦略的研究開発推進事業費

内容 本学専任教員の複数名からなる研究グループの行う共同研究で、研究領域・分野の特定を行わず、既成概念にとらわれることなく、独自の課題認識の基に研究テーマを設定し、具体的に成果をあげることを目的とした、提案公募形式による特色のある共同研究を対象に助成する。

5. 学際的共同研究事業費

内容 本学専任教員の複数名からなる研究グループの行う学際的共同研究を推進するための研究を対象に助成する。ただし、研究遂行上必要な場合は学外の研究者の参加を認める。単年度申請とするが、継続申請を認め、最長3年間とする。

6. 教育研究改善支援事業費

内容 本学専任教員が、原則として個人で進める研究で、実践的、先駆的な特色ある教育方法等の研究を対象に助成する。例えば、教育指導及び手法の改善/効果的教材の開発/導入教育の充実/新しい教授法の開発等で、成果の結実につながるもの。

7. 出版・刊行助成事業費

内容 学術的に価値が高い研究成果で、通常の出版が困難である本学専任教員の単著または共著で刊行予定のものであり、本大学に蓄積された、豊かな学術活動の成果を社会に公開するための学術書・教科書・啓蒙書等の出版・刊行を対象に助成する。

◆ 「若手研究助成事業費」 採択者一覧 ◆

	所属学部等	職名	研究代表者	研究課題	配布額(千円)
1	法学部	講師	榎本 雅記	刑事免責制度に関する比較法的研究—アメリカ合衆国法を中心に	500
2	理工学部	講師	坂野 秀樹	柔軟な声質制御が可能な歌唱音声合成システムの構築	500
3	理工学部	講師	岩谷 素顕	ナイトライド量子細線トランジスタの開発	500
4	理工学部	講師	大藏 信之	渦輪を用いた熱や物質輸送の試み	500
5	理工学部	講師	菅 章紀	ミリ波・マイクロ波誘電体セラミックの共振周波数の温度係数とその材料設計	500
6	理工学部	講師	大塚 貴弘	局部座屈を考慮したH形網トラス要素モデルに関する研究	500
7	農学部	講師	津呂 正人	ラベンダーの形質変異と精油生合成関連遺伝子の探索に関する研究	500
8	農学部	助教授	近藤 歩	植物機能を利用した持続型環境都市づくり —CAM植物のバイオマス有効性について—	500
9	薬学部	助手	植田 康次	環境化学物質によるRNA損傷と生体影響	500
10	人間学部	講師	志村 ゆず	高齢者の回想の対人関係機能に関する研究	500
				計	5,000

◆「基礎的研究促進事業費」 採択者一覧 ◆

	所属学部等	職名	研究代表者	研究課題	配布額(千円)
1	経済学部	助教授	佐土井有里	知識・技術集約産業への構造変換過程における技術形成の国際比較	1,000
2	理工学部	助教授	坂 えり子	低コストな方法によるMgB ₂ 線材の作製と超伝導特性の評価	1,000
3	理工学部	教授	小川 宏隆	ナノ・インテグレーションのための新規ピエゾナノ結晶粒子の創製プロセスの確立	1,000
4	理工学部	教授	森田 健治	水分解水素発生・水素含有酸化セラミックスの薄膜化技術の開発	1,000
5	農学部	助教授	平野 達也	窒素環境の変化に対するイネ植物体の形態的および生理的適応機構の解明	1,000
6	農学部	助教授	磯井 俊行	根粒形成遺伝子 <i>nodC</i> を用いた土着根粒菌密度測定法の開発とその利用	1,000
7	農学部	講師	中尾 義則	異なる光条件下でのイチジクの光合成活性と同化産物の転流蓄積機構の解明	1,000
8	薬学部	教授	野田 幸裕	うつ病のモデル動物に認められる情動・認知障害と神経変性に関与する分子の探索	1,000
9	薬学部	助教授	小森由美子	薬剤師におけるメチシリン耐性ブドウ球菌保菌のリスク解析と伝播経路に関する疫学調査	1,000
10	薬学部	助教授	秋田谷龍男	非特異的相互作用が誘起するDNA高次構造と遺伝子発現のON/OFFスイッチ	1,000
11	薬学部	助教授	岡本 浩一	肺がん治療を目的とした遺伝子ドライパウダー処方最適化と吸入器の開発	1,000
12	薬学部	助教授	橋爪 清松	化学物質・生体・環境間相互作用の解析に基づく環境化学物質総合リスク評価	1,000
13	薬学部	助手	戸田千登世	環境中・生体内におけるフタル酸エステル類の内分泌攪乱作用発現と微生物による浄化	1,000
14	都市情報学部	講師	杉浦真一郎	介護保険事業の制度的課題とその地域的性格に関する地理学的研究	1,000
計					14,000

◆「研究成果展開事業費」 採択者一覧 ◆

	所属学部等	職名	研究代表者	研究課題	配布額(千円)
1	法学部	教授	谷口 昭	「藩法史料のデジタル化および文字列検索システムの構築」の展開	1,000
2	経営学部	教授	國村 道雄	漸進的な会計改革による利益概念の変容が企業価値の説明力にどのように影響したのか	1,000
3	経営学部	教授	三谷 進	アメリカ金融市場における投資信託のガバナンス機能の分析	1,000
4	理工学部	教授	中野 倫明	高齢ドライバの運転適正チェックおよび再教育・訓練のための運転視力・判断力の測定方法	1,000
5	理工学部	教授	平松美根男	カーボンナノ構造体を基盤とする次世代電子デバイスの開発	1,000
6	理工学部	助教授	丸山 隆浩	基板表面の周期性を利用したカーボンナノチューブの配向成長	1,000
7	理工学部	教授	松井 徹哉	大型液体貯槽の地震時スロッシングに伴う浮屋根の沈没メカニズムの解明	1,000
8	理工学部	教授	谷川 恭雄	レンガ造を中心とする歴史的建築物の調査・診断のための非破壊検査技術の確立	1,000
9	農学部	助教授	林 利哉	レトルト処理によって派生する食肉ペプチドの機能性評価に関する研究	1,000
10	薬学部	助手	間宮 隆吉	米および大豆による精神疾患予防と食育への応用	1,000
11	都市情報学部	教授	若林 拓	高規格道路網の所要時間信頼性解析のための所要時間変動と交通量との関係の分析	1,000
12	人間学部	教授	榎本 博明	自己物語法による自己のアイデンティティの抽出	1,000
13	人間学部	助教授	天童 睦子	男女共生時代におけるケアワークとジェンダーに関する社会学的研究	1,000
14	教職センター	助教授	平山 勉	授業記録アーカイブ・配信システムを活用した授業改善プログラムの開発	900
15	法務研究科	教授	松倉 耕作	親子法と父を知る権利	1,000
計					14,900

◆「戦略的研究開発推進事業費」 自然科学系 採択者一覧 ◆

	所属学部等	職名	研究代表者	研究課題	配布額(千円)
1	理工学部	教授	板倉 文忠	多点観測による音響信号の変化のモデル化に関する研究	3,000
2	理工学部	教授	成塚 重弥	低角入射マイクロチャンネルエピタキシーを用いたGaNマイクロ構造の作製	3,000
3	理工学部	助教授	日比野 隆	耐塩性ラン藻の分子シャペロン遺伝子導入による環境ストレス耐性植物の作出	3,000
4	農学部	助教授	松儀 真人	フルオラスケミストリーを基点とする有機反応プロセスの簡略化	3,000
計					12,000

◆「学際的共同研究事業費」 採択者一覧 ◆

	所属学部等	職名	研究代表者	研究課題	配布額(千円)
1	理工学部	教授	山本 新	認知症を含む高齢者の運転機能診断方法および診断システムの開発	2,000
2	都市情報学部	教授	木下 栄蔵	新しいネットワーク型社会における集団合意形成と政策決定に関する研究	2,000
計					4,000

総合研究所

公開講座「ライフサイエンス実験講習会」

参加者募集のお知らせ

名城大学総合研究所では、毎年「ライフサイエンス実験講習会」を開催しております。理工学部・農学部・薬学部の3学部で順番に開催しており、本年は農学部の番で「基礎遺伝子操作」をテーマに行います。皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ◎開催日時：平成19年3月23日(金) 9:30～16:00
- ◎会場：名城大学天白キャンパス
共通講義棟北 N002学生実験室
- ◎テーマ：「基礎遺伝子操作」
— 光るバクテリアはなぜ光るか —
- ◎講師：名城大学農学部 市原茂幸教授 他
- ◎募集人員：40名程度
- ◎受講料：無料
- ◎問合せ先：名城大学総合研究所(学術研究支援センター) TEL(052)838-2034

公開シンポジウム **報告**

女性が拓く未来社会 ～男女共生と地域コミュニティの構築に向けて～

基調講演「ジェンダー研究の現代的意義と課題」

講師：水田珠枝氏

(東海ジェンダー研究所理事、名古屋経済大学 名誉教授)

第1部 「男女共生と国際社会」

パネリスト：伊東玲子氏 (カンタベリー大学 講師)

木村捨雄氏 (名城大学人間学部 教授)

天童睦子氏 (名城大学人間学部 助教授)

第2部 特別講演「戦国時代を生きた女性たち」

講師：田端泰子氏 (京都橘大学 学長)

去る1月13日、名城大学ジェンダー研究プロジェクト主催、総合研究所後援による公開シンポジウム『女性が拓く未来社会』～男女共生と地域コミュニティの構築に向けて～ が開催されました。

今回のシンポジウムには約350人の参加者があり、基調講演に東海ジェンダー研究所理事の水田珠枝氏、特別講演に京都橘大学学長の田端泰子氏といった、それぞれの専門領域における第一人者を招いて、国際的・歴史的視点から「ジェンダー平等な生活・文化空間」のあり方を検討しました。未来社会を切り拓いて行く新しい女性像について考えるという面からも、また、ジェンダー研究を名古屋から発信し、同時に地域貢献を果たしていく面においても、地域住民・学生が一体となった、大変熱の入ったシンポジウムとなりました。

「男女共生と国際社会」と題したパネルディスカッションでは、人間学部の木村捨雄教授・天童睦子助教授、ニュージーランドのカンタベリー大学の伊東玲子講師の3人がパネリストとなり、それぞれの視点からジェンダー研究の発表を行いました。また、東海・東京・関西・九州から集った研究者による研究分科会では、より専門性の高い研究報告が行われました。

ジェンダー(社会的性別)の考え方は、世界標準となっているものの、日本ではまだまだ浸透していない部分が多く、今後の名城大学ジェンダー研究所から発信される多くの研究成果に期待が寄せられます。



「紀要」と「総合学術研究論文集」の発行

紀 要 第10号 目次

◇研究報告

- NH₃ガス中DCアーク放電によるgraphitic-C₃N₄とα-C₃N₄超微粒子の作製 登坂 一生, 岡崎 次男
 高等学校理科教員からみた名城大学が取り組む高大連携への認識と現状に関する意識調査 武田 直仁, 杉下 潤二
 卵巣摘出マウスで観察されるうつ様症状に対するアロマオイルの効果 鶴飼 良, 出口裕佳子, 浅沼 貴公, 長谷川裕矢, 間宮 隆吉

◇研究報告(奨励助成等)

- 経営学部の新基礎科目「経営分析入門」の教育用ケース・スタディ集作製の研究 國村 道雄, 中根 敏晴, 谷江 武士
 技術移転進捗度の国際比較研究 — 東南アジア・中国へと生産シフトを進める自動車部品生産技術を例に — 佐土井有里
 蛍光SiC結晶の光学特性 — 超高光束白色LEDのキーテクノロジー — 上山 智, 岩谷 素顕, 天野 浩, 赤崎 勇
 電子ビーム励起プラズマによるBN薄膜の創製とトライボロジー特性 アブラハ ベトロス, 吉川 泰晴
 遺伝子工学を用いたアマランスにおけるベタイン合成・蓄積機構の解析 田中 義人, 日比野 隆, 高倍 昭洋
 車両間の協調による運転支援システムのための要素技術 津川 定之, 田川 晋也, 道風美千夫, 久野 和宏
 材料の表面創成に及ぼす微粒子衝突処理条件の影響 江上 登, 來海 博央, 宮原 拓, 八田 晃史
 利用とアメニティーを考慮した海浜の環境修復と保全 伊藤 政博, 垣鋤 直, 大影 佳史
 a面GaNのp型伝導性制御 — c面GaNとの比較 — 岩谷 素顕, 上山 智, 天野 浩, 赤崎 勇
 竹を利用した低環境負荷極低温電気絶縁材料の開発 清水 教之, 村本 裕二, 志治 雄平
 走査トンネル顕微鏡を用いたナノリングファイバーのシミュレーション — シミュレーションプログラムの開発 — 成塚 重弥, 上村 英明, 丸山 隆浩
 蛋白質中電子移動の理論と計算 垣谷 俊昭
 有限要素法による繊維配向を有した多結晶薄膜の材料特性予測 來海 博央, 福島 恵介, 福井 義章, 田中 啓介, 秋庭 義明
 乾燥耐性型光合成CAMの多様性とその制御機構に関する研究 — CAM植物の葉緑体集合運動に及ぼす過酸化水素の影響 — 近藤 歩, 貝川 純, 油谷 直和, 竹島 康之, 船隈 透
 ピリドキサールーアミノグアニジンSchiff塩基各種誘導体の抗酸化作用 三輪 一智
 学生実習における教材の電子化によるオンデマンド学習への検討 — 実習用動画教材の作成 — 武田 直仁, 平松 正行
 米国薬学部における医薬品情報学教育の実際 大津 史子, Kathleen Besinque
 p53によって発現誘導されるmRNA不安化因子TIS11の細胞内局在 金田 典雄, 村田 富保
 メタンフェタミンの反復投与は認知記憶を障害する 亀井 浩行, 永井 拓, 中野 寛子, 東岸由里子, 高柳 匡徳, 高橋 健次, 小林 香奈, 吉田 茂, 前田 健二, 田熊 一敏, 鍋島 俊隆, 山田 清文
 ラット脳視床下部グルコキナーゼの分布 豊田 行康, 西尾 崇, 平松 正行, 三輪 一智
 多剤耐性菌の克服を志向した新規天然有機化合物の探索 — マメ科Erythrina variegataの成分研究 — その構造決定と抗菌活性 田中 齋, 須藤 優, 佐藤 勝
 分子シャペロン機能に基づく新たな神経変性疾患治療の基盤研究 — Osp94分子シャペロンの機能ドメイン解析 — 小島 良二
 光照射ノニフェノールからのDNA損傷物質の生成 — 環境化学物質の活性化による毒性発現 — 小嶋 伸夫
 遅発・進行性の学習・記憶障害モデル動物に対するκ-オピオイド関連薬物の治療効果機構の解明 平松 正行, 三輪 将也, 鬼塚 文子, 水野奈津子, 兼松 顕
 カルボン酸から2-オキサリジノンへのワンポット合成 原 脩, 前波 勇
 熱ストレス条件下におけるmRNA不安定化因子TIS11のストレス顆粒への移行 村田 富保, 金田 典雄
 異物による内分泌攪乱を増強する内在性因子としての代謝疾患 植田 康次, 小嶋 伸夫

- 微生物関連科目の効果的学習を目指した授業改善の試み 小森由美子, 大津 史子, 二改 俊章
 形成的評価を取り入れた教育方法の開発と学習支援システム 飯田耕太郎
 AHPによる道路整備の優先順位に関する意思決定の方法 木下 榮蔵, 大野 栄治
 介護保険の広域化の問題点について 杉浦真一郎
 自己物語面接法により自己のアイデンティティをとらえる試み 榎本 博明
 植物・ラン藻のグリシンベタインの合成・輸送・蓄積の分子機構 高倍 昭洋, 田中 義人, 日比野 隆, 中村辰之介, 四方 正光

総合学術研究論文集 第5号 目次

◇総説

- 水素含有酸化物セラミックスの水分解・水素放出触媒機能とその応用 森田 健治, 坂 えり子, 土屋 文, 片平 幸司

◇学術論文

- Microcystin-LRによる初代培養マウス肝細胞における酸化ストレス誘導 河井 一明, 今西 進, 高月裕美子, 中澤 清, 葛西 宏, 原田 健一
 ラジカル環化反応による多置換6員環エーテルの合成 平松 直樹, 野上 孝一, 森 裕二
 高齢ドライバーのための運転視力測定システム 中野 倫明, 高木 佳哉, 萩 尊史, 奥村 浩司, 山本 修身, 山本 新
 S¹×S²×R³上のSpin (7) 枠場について 橋本 英哉
 地下水投入による堀川の流況回復と水質改善に関する検討 原田 守博, 小笠原孝行
 地球環境問題が明かす人間と自然の共生原理 垣谷 俊昭, 垣谷 宏子
 自動車運転時の意識状態を考慮した警報提示方法 山崎 初夫, 福元 将隆, 山本 修身, 中野 倫明, 山本 新
 UV LEDによるJurkat 細胞への紫外線照射特性 稲田シュンコアルバーノ, 天野 浩, 赤崎 勇, 森田 明理, 小林 桂子
 Ag超微粒子を添加したEu-Ba-Cu-O超伝導厚膜の臨界電流密度 坂 えり子, 池辺由美子, 松岡 是治
 ダム貯水池における既往堆砂実績に基づいた堆砂量・堆砂形状の推定に関する研究 宮本 博司, 鈴木 徳行, 新井 宗之, 清水 孝貴
 ポール・カップ粘度計の開発・実用化 村上 好生, 石原 莊一
 「高齢化と年功序列制度の崩壊」 — 日本型雇用社会の将来像とは? — 柳澤 武
 女性長距離ランナーの最大酸素摂取量における年齢・閉経・トレーニングの効果 鈴木 茂廣, 鷺見 勝博, 安藤 好郎
 市街地走行時のドライバーの精神的負担 — 心拍のウェーブレット解析 — 横森 求, 傘谷 純樹
 ばね支持された軸圧縮はりの接触大変形解析 大槻 敦巳, Fernand ELLYIN
 ファジィ制御を用いた航空機の自動着陸制御則 加藤 明夫, 桶田 良樹
 ニューラルネットワークによる航空機の操縦者モデル 加藤 明夫, 中村 武史, 松原 玄洋
 矩形断面チューブ内を伝播するデトネーションの挙動 杉村 忠良, 黒宮 康弘, 瀧 佳弘
 自動車用ステアリングホイールスイッチの操作性 — 表裏スイッチの影響 — 池村 澄男, 石原 莊一, 竹内 淳一
 若い父親の育児参加とジェンダー意識 — 共働きカップルの育児意識調査の分析から — 天童 睦子, 石黒万里子
 焼酎蒸留残渣の有効利用を指向した含有成分の化学・薬理的検討 高谷 芳明, 丹羽 正武

編集後記

ニュース18号では、4月に開設した「アジア研究所」福島所長の挨拶と、大学院総合学術研究科 榎本博明教授の研究報告及び「紀要第10号」「総合学術研究論文集第5号」の目次を掲載しました。

次号では、総合研究所「座談会」の模様を掲載する予定です。

なお、このニュースの企画・編集は下記の企画広報担当と学術研究支援センターが担当いたしました。

企画広報担当

- 磯井俊行(農学部) 榎本雅記(法学部) 伊藤秀俊(経営学部)
 榎本博明(人間学部) 平松正行(薬学部)



名城大学総合研究所

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL(052)832-1151 FAX(052)833-7200
E-mail souken@ccmails.meijo-u.ac.jp